

「大地の子」 農業使用資料

株式会社 ウェイテクネット

大地の子の特徴

植物が必要とする基本的な栄養素は、窒素・リン酸・カリなどの化合物です。各種の栄養肥料の殆どは有機化合物でそれ自体では植物は吸収できません。

では、何故吸収するようになるのでしょうか。それは、一般の土壌にいる好気性微生物が有機物を無機質に分解して(窒素化合物から化合物を分解し窒素だけの無機質だけ残す)植物が吸収できるようにするのです。今までの農業では、肥料関係の知識は教えていましたが、肥料がどのように植物に関係して吸収されるかまでは教えていないようです、其処に現在の問題点があるように思われます。

どれだけ化学肥料をやっても、それが有機物を分解する機能がなければ、植物は栄養として吸収できないのです。化学肥料を大量にやると、土壌に生息している好気性微生物は盛んにそれを餌とし繁殖します。好気性微生物が繁殖するには大量の酸素が必要です、然し土壌を満足いくまで攪拌する事はなかなか困難です。その事により元々いた好気性微生物が死滅し、嫌気性の菌が発生する事になり、土壌がやせて生育を妨げ、更に色々な病気を発生させる結果となります。

大地の子には、河川の浄化・油分分解・工場廃液浄化・etc など20数年に及び実績のある、520種類の好気性微生物を効率よく、バーク資材その他に繁殖培養し、また天然鉱物(石墨片石・緑色片石)のミネラル微量元素をブレンドしております、この事により下記のような特徴があります。

1. 微生物の増殖は、菌体の微生物の増殖富化は、必然的に根圏を清浄化して、根の障害を軽減化すると同時に、無機物や有機物の分解を進め、それらの成分の吸収を旺盛にし、根の生育を促進します。
2. 分泌物などの良質の動物性の窒素や、ホルモン類を芝草の根に供給しますので、土壌微生物の豊富な芝地はそれなりに、植生の生育が好転いたします。
3. 有害菌に対する免疫力(静菌作用)の増進による耐病性の向上は、減量した農薬・化学肥料での栽培管理のもたらす労力と、時間の省力化に大きく貢献いたします。

地球規模でのCO2削減に大きく貢献いたします。

総論

戦後、農業は生産第一主義で、多くの化学肥料と殺虫剤の使用により栄えてきたことは紛れもない事実です、近年この栽培方法に疑問を持つ多くの農家の方々、また営農組合が生まれています。

本来植物とは自然的な形での栽培が最も理想的あるべき姿だと考えます、そうする事によりその植物の持っている食味が十分生かされた生産物が出来ると考えます。

目的

土壌改良、土壌活性化（土壌のバランス均一化）。

大地の子を散布することにより、有機物の分解と無機化肥料へのすみやかな転換。

植物自身が持っている免疫力をアップし、各種病原菌による農作物の被害を最小減に抑える。

土壌中の土壌類菌の均一化と、有効性微生物の増殖。

- ・ 上記の事柄により、芝の根張りの育成促進。
- ・ 作物自体が持つ免疫性の向上……各種農作物の病原菌の減少
- ・ 不足しがちな、ミネラル元素(天然鉱石)を配合して居る為、植物の免疫性をアップする。

畜産糞尿の速やかな堆肥化と悪臭の除去

- ・ この事により窒素分のすみやかな分解
- ・ 連作栽培の問題点を解決し、連作栽培を可能にする。



大地の子使用写真

大地の子を使用したキュウリはうどん粉病もなく、葉の色が鮮やか緑色をしている。



未使用のキュウリはうどん粉病が発生し、葉の色もどす黒い。



大地の子使用写真

大地の子を使用し無農薬無化学肥料でのぶどう園



生産者と無農薬無化学肥料での栽培説明会。



大地の子使用写真

大地の子を使用した稲作比較

左:大地の子 右:通常



根の比較

左:大地の子使用 右:通常

